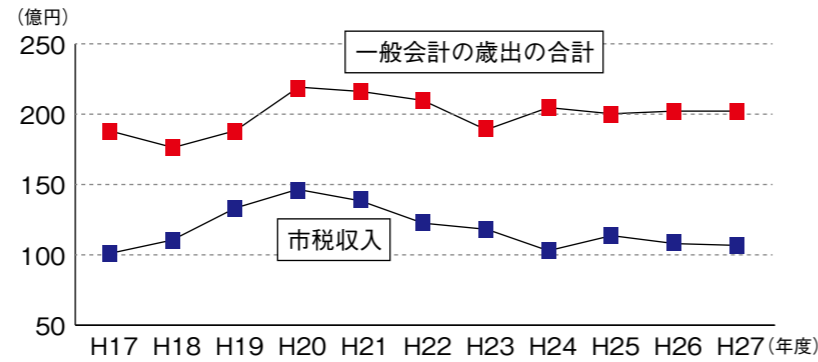


決算経過

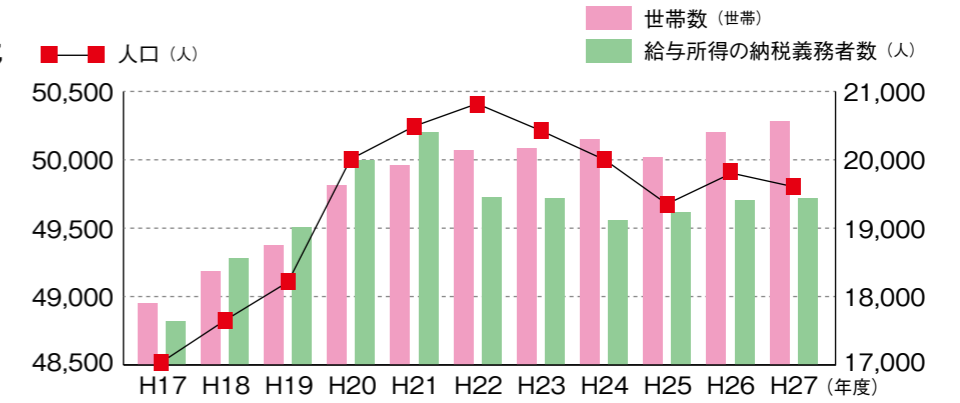
亀山市は、今後の市税の減収や普通交付税の段階的な減額が見込まれる中で、創意工夫の行政運営が求められています。

一般会計の歳出の合計と市税収入の推移



人口・世帯数・納税義務者数の推移

※人口と世帯数は4月1日現在
※給与所得の納税義務者数は7月1日現在



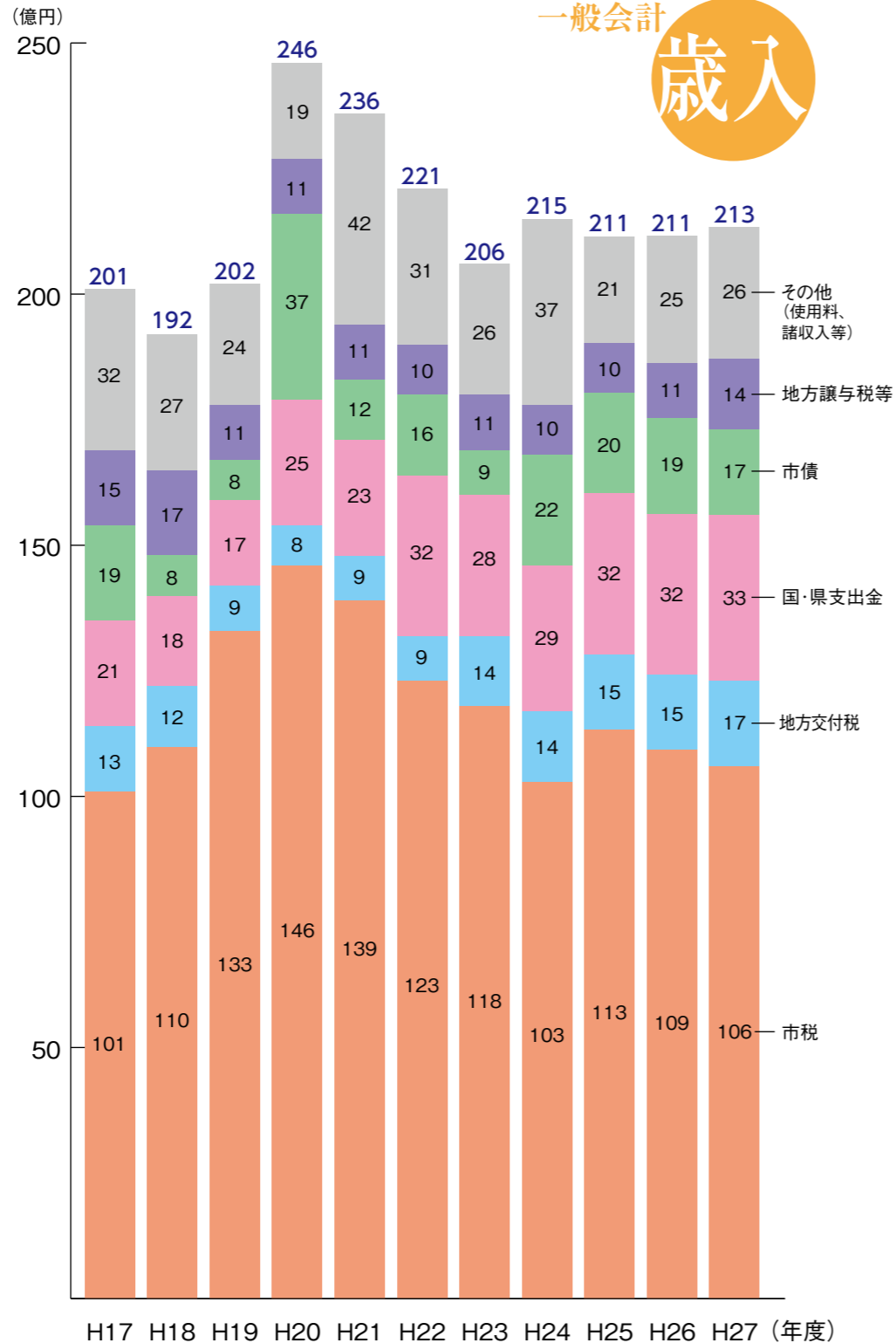
歳入の経過

人口はほぼ5万人で推移していますが、市税収入は平成20年度の146億円をピークに平成24年度まで減り続け、平成25年度決算では113億円と一時増収となった以降は減少し、平成27年度決算では106億円と前年度より約3億円の減収となりました。今後も引き続き厳しい状況が続くことが予想されます。

また、国・県支出金は33億円、地方交付税は17億円、地方譲与税等は14億円となり、前年度と比較して6億円増となりました。

市債(借金)は、野村布気線整備事業、し尿処理施設長寿命化事業などの財源を借り入れしましたが、前年度より2億6千万円減の16億9千万円となりました。

その他の収入は、使用料や諸収入など26億円で、前年度より1億円の増となりましたが、公共下水道事業の企業会計化に伴う繰出し財源として繰入金を増としたことが主な要因となっています。



歳出の経過

人件費については、前年度より1億円減の38億円となりましたが、扶助費については、前年度より1億円増の34億円となりました。

補助費においては、社会福祉・児童福祉事業費の増加により、年々増加傾向にあり、前年度より4億円増の18億円となりましたが、繰出金において前年度より3億円減の17億円となっており、繰出金・補助費等の増減については、公共下水道事業の企業会計化によるものが大きな要因となっています。

普通建設事業については、前年度より3億円減の24億円となり、主な事業として、野村布気線整備事業、し尿処理施設の長寿命化事業に取り組んだほか、中部中学校クラブハウス建設事業などの教育施設整備事業の執行によるものです。

また、公債費(借金の返済)は、前年度より2億円減の22億円となっています。

物件費については、前年度並みの39億円となりましたが、歳出全体の約2割を占めていることから、引き続き、ごみ溶融処理施設や教育施設など各種施設の運営に係る経費削減を図る必要があります。

